

グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp



四国山の日

No.1101 2011年12月号

「小田深山ふれあいの森」の協定締結

～人と自然の調和をめざし～

【関連記事2頁】



山崎愛媛森林管理署長（左）稲本内子町長（右）による協定（11月2日）



植樹活動参加者（11月13日）



2011・国際森林年



地元小学生や森林ボランティア等による植樹活動

民参加の森づくりと小田深山の自然林再生や住民のふれあいを目指したレクリエーション活動の場を求めていたところです。今回の「小田深山ふれあいの森」の協定により森林

管理署と町・住民の方々が協力して森林を造成し、「森と水の美しさ」「自然を大切にすする心」を発信していくこととしました。また、一月一三日には、「小田深山ふれあいの森」で地元の小学生や高校生、森林ボランティア等約八〇名が参加して、看板の除幕式などのセレモニーを行い、その後、森林教室や植樹活動を実施しました。

当署職員による森林教室では、植樹するミズナラ・カエデ類（一五種類）の広葉樹の特徴や森林の働きなどについて説明しました。内子町からは、植樹活動の注意点を説明していただき、苗木約六〇〇本を植樹しました。参加した地元内子町の小学生は「植えていくのは楽

しいが疲れるし大変だった」と一〇年後、二〇年後を楽しみに、また見に来たい」と笑顔を見せていました。今後とも当署として森づくり活動を支援し、普及活動に取り組んで参ります。

一月二日、愛媛森林管理署と内子町で愛媛県内子町小田深山国有林五五林班い小班（二・一〇ha）において「ふれあいの森」における森林整備等の活

動に関する協定」を締結しました。内子町は、小田深山において「せんの森（人と自然との共生の森）」づくり活動を行っており、住

民参加の森づくりと小田深山の自然林再生や住民のふれあいを目指したレクリエーション活動の場を求めていたところです。今回の「小田深山ふれあいの森」の協定により森林

一月二日、高知県立高知農業高等学校森林総合科の三年生一九名を対象に、高知県中土佐町新道山国有林橋ヶ谷林道工事現場と中土佐町内の優良木造施設の見学を行いました。橋ヶ谷林道では、林道の施工法について学習しました。生徒は、林道設計を学習中であり、工事に使用する設計図面を見たり、施工現場を見学する中で、横断排水設備や法面の丁張りなどについ

て生徒から積極的な質問がありました。優良木造施設として、平成二三年八月七日新校舎が落成した中土佐町立久礼中学校校舎を見学しました。平成二三年八月七日新校舎が落成した中土佐町立久礼中学校校舎を見学しました。平成二三年八月七日新校舎が落成した中土佐町立久礼中学校校舎を見学しました。



また、一月一三日には、「小田深山ふれあいの森」で地元の小学生や高校生、森林ボランティア等約八〇名が参加して、看板の除幕式などのセレモニーを行い、その後、森林教室や植樹活動を実施しました。

一月二日、高知県立高知農業高等学校森林総合科の三年生一九名を対象に、高知県中土佐町新道山国有林橋ヶ谷林道工事現場と中土佐町内の優良木造施設の見学を行いました。橋ヶ谷林道では、林道の施工法について学習しました。生徒は、林道設計を学習中であり、工事に使用する設計図面を見たり、施工現場を見学する中で、横断排水設備や法面の丁張りなどについ

て生徒から積極的な質問がありました。優良木造施設として、平成二三年八月七日新校舎が落成した中土佐町立久礼中学校校舎を見学しました。平成二三年八月七日新校舎が落成した中土佐町立久礼中学校校舎を見学しました。





久礼中学校体育館

ら、木材の活用や木材の特性について理解を深めました。

今回で、今年度の国有林野等の現場学習を終え、高校生達は森林に対する関心を高め、国有林の業務や、森林の持つ働きの重要性について理解できたようでした。

各地のたより

順調な植生回復を確認

〈ふれあいセンター〉

頂周辺の植生回復に取り組んでいます。



蘇りつつある滑床山頂

好天に恵まれた一〇月一八日、滑床山頂（通称三本杭）において関係機関、ボランティア団体等の関係者三六名が参加して、第七回滑床山植生回復検討会を開催しました。宇和島市、松野町、四万十市にまたがり、かつてはミヤコザサやオンツツジが群生していた滑床山頂周辺は、平成一二年頃からニホンジカの被害により裸地化したことから、平成一八年六月に滑床山植生回復検討会を立ち上げ、ボランティア等の協力も頂きながら山

今回の検討会では、平成一九年三月にシカ防護ネットを設置して移植した「たるみ」及び「滑床山頂」のミヤコザサが順調に繁茂していることや、枯れ木など現地資材を活用した簡易な土留め措置

がリョウブやカエデなどの稚樹の発生を促し、土壌の流出を防止しつつある状況などを確認しました。

当センターからは、昨年の検討会で提言された滑床山頂西斜面のギャップに、シカ防護ネットを設置することを説明するとともに、「たるみ」と「山頂」のネット内は登山道をロープで標示して登山者に協力を呼びかけ、拡がりつつあるミヤコザサの地下茎を保護していくことを提案し了承されました。

また、滑床山頂周辺でニホンジカによる剥皮被害などを調査している（独）森林総合研究所四国支所から、ネット外では継続的に被害が発生していることや、ニホンジカの生息密度は依然として自然

植生に大きな影響を及ぼす高いレベルにあることなどが報告され、出席者からも広範囲な被害状況、連携した個体数調整の必要性などの意見が出されました。

当センターはモニタリングを継続し、関係者、ボランティア等と協働して、滑床山頂周辺の植生回復に取り組んでいくこととしています。



現地検討会

四万十川の

源水の地を目指して

〈ふれあいセンター〉

一〇月三十一日、四万十高等学校と、大正・十川・昭和・北ノ川の各中学校の生徒五四名を対象に、四万十森林管理署の応援を得て、「西の千本山」と「四万十川源水の地」を案内しました。

この森林教室は毎年恒例となつているもので、地元の高校生と中学生が四万十川源水の地である不入山いらふやまを訪れ、森林生態系の成り立ちおよび本来の森の構成を学習するとともに、流域の自然のあり方について考えるきっかけづくりを目的に学習しているものです。

西の千本山では、複層林施業についての説明や

直径巻尺やデジタル測高計を使つての測樹を体験しました。源流点から更に奥の

源水の地登山では、予想以上の足元の悪さに閉口して

いましたが、四万十川の最初の一滴を見て、疲れも吹き飛んだ様子でした。

生徒達は、自分たちの生活を支える水を育む森への関心・理解が一層深まったことと思います。



源水の地で記念撮影

ブナの森に遊ぶ

〈ふれあいセンター〉

紅葉が色づき始めた十一月、高知県と愛媛県にまたがる鬼ヶ城山系の八面山やつづらやまをたぐさんの小学生が訪れました。

一日は、四万十市立下田小学校四年生一七名、一日は、同立市津野川小学校全校児童二一名、一日は、宿毛市立松田川小学校五年生四九名、二日は、四万十市立川崎小学校五年生一七名、二日は、同市立具同小学校五年生七二名です。

各学校は、旧黒尊スーパー林道を宇和島市側や黒尊溪谷側から一時間以上かけて「猪のCOL」下の登山口に到着。曲がりくねった道に乗り物酔いする児童もいましたが、

登り始めると眼下に宇和海が広がり、時折吹く秋風に気分も良く、元気に登りました。

登りながら樹木の名前やその由来、特徴などを職員から教わっていました。

また、近年、八面山周辺ではニホンジカによる食害により林床のミヤコザサや灌木類の衰退が進んでおり、職員からニホンジカの食害跡やニホンジカが食べないために増えている植物などを教わりました。

約一時間で山頂に到着すると、四方の景色を堪能し、ブナ林へ向かいます。八面山山頂から滑床山（通称・三本杭）に続くつり尾根にはブナ林が広がっており、黄色く色づいたブナの落ち葉が積

もった林床でお弁当を広げました。昼食の後は、直径一メー

トルほどもあるブナの大木にロープをかけた職員手作りのブランコで遊びます。高さ八メートルほどの枝にかけたブランコは、斜面の高さと相まって高度感満点です。最初は「怖い」と言っていた

児童も「アルプスの少女ハイジみたいや」と何度も乗り、学校では味わえない森での遊びに歓声を上げていました。帰途、空気の澄んだ日には途中にある大久保山から、東は西日本最高峰石鎚山、西は九州の阿蘇、久住の山並みを望むことができます。

運良くこの絶景を見ることができたり、予想以上の寒さに震えながらお弁当を広げたり、各学校